

## 令和3年度第1回富山県いじめ再調査委員会 議事要録

- 1 日 時 令和4年1月27日(木) 15時00分～16時13分
- 2 場 所 富山県民会館7階707号室
- 3 出席者 委員4名 油本秋美(臨床心理士) 高坂愛理(弁護士)  
永山くに子(富山大学名誉教授) 吉本博昭(精神科医)  
事務局 武隈 俊彦(経営管理部・次長)  
掃本 之博(学術振興課長)  
西山 篤(県教育委員会小中学校課主幹) ほか4名

### 4 会議次第

- (1) 武隈経営管理部次長挨拶
- (2) 議事録署名人の選出について
- (3) 今回の会議の公開について
- (4) 説明事項

富山県におけるいじめの認知状況及び対策等について

- (5) 意見交換(主な意見)

【油本委員】 学校の先生方をはじめとして教育委員会で、いじめ、不登校の子供たちなど様々な問題を抱える子供たちの支援についてきめ細かな対策を講じ、日々努力していただいていることに感謝するとともに、数が減ることを良しとしないような風潮が、これからも続いてもらいたいと思っている。

私たち心理士はスクールカウンセラーとして子供たちのカウンセリングだけではなく、現場の先生方もサポート出来るような役割も果たしたいと考えている。

【高坂委員】 今回作成されたフローチャートがあることで、先生方が具体的ないじめ事案、或いはいじめと思われる事案にぶつかった時に、具体的にどういうふうに動いて良いかということが非常にわかりやすいものになっている。ぜひ活用していただきたい。

また、今一度いじめの定義を見直すとともに、子供から相談が来た場合の対応の慎重さというものをあらためて確認し、子供の気持ちを放置しないでいただきたい。大切なのは子供の苦痛をどの様に解消するか、子供を学校が如何に守るかである。

【永山委員】 人と人との関係のあり方も大きく変化してきている。対面でのコミュニケーションに比べLINEなどの文字によるコミュニケーションでは、言葉のもつ凶器性が際立つこともある。また、新型コロナウイルス感染症の影響で子供たちの居場所、心の置き場所がなく、大人でさえ鬱になってきて限界にきている。大人が安定していないところに子供の心の安定が望めるのか、というところは大きな問題になりつつある。

命を守り心身の健康をどう維持していくかということは大きな課題である。

【吉本委員】 家庭環境など生徒の背景の中に入ることや、調整することなど、学校や先生方だけではやはり限界があり、SCやSSWを活用すべきである。

教育委員会や学校は大変だろうが、SNSやLINEといった生徒同士の新しい関係性が生じてくることへの対応を考えていかなければならない。その中でいじめが発生するのは間違いないだろうと思っており、まだ富山県がそのような事例がないのであれば、今のうちから考えておく必要がある。